

令和4年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン事業」成果報告会 開催報告

- 1 趣旨 本県では、幅広い地域住民等の参画により、未来を担う子どもたちの成長を支え、「社会に開かれた教育課程」を実現するため、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行う体制を構築するために「学校を核とした地域力強化プラン」を進めている。
本報告会は、標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の報告や情報交換を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後のステップアップの方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 (1) 地域学校協働活動関係者（推進員、コーディネーター、ボランティア等）
(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者（協議会委員等）
(3) 家庭教育支援員、家庭教育関係者、子育て支援関係者
(4) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者（行政担当者等）
(5) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員
(6) 県および市町の社会教育委員
- 4 日時 令和5年1月20日（金） 13:30～16:30
- 5 会場 滋賀県庁 新館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）オンライン参加も可
- 6 内容
 - ・事例報告① 竜王町立竜王西小学校
「ふるさと学習推進プロジェクト
～地域（ふるさと）を語れる子に、地域（ふるさと）を誇れる子に～」
報告者：竜王西小学校校長 武久 雅則 氏
竜王町地域学校協働活動推進員 岡山 厚子 氏
 - ・事例報告② 高島市立湖西中学校
「学校地域合同防災学習の取組」
報告者：湖西中学校 地域連携担当教諭 落合 孝夫 氏
新旭地域学校協働活動推進員 大藤 耕平 氏
 - ・講評：「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会 座長 伊藤 照男 氏
- 7 参加者数 161名（来場48名、オンライン113名）
- 8 報告・情報交換会の概要
【竜王西小学校での取組】
ふるさと学習についての具体的な取組を進めるために、学校運営協議会で学校と地域の願いを共有し、活動のイメージが持てる構想を提案することを重視して、組織の見直しを図られた。学校と地域のメリットを明確にし、地域学校協働本部との連携を密にしてフレキシブルな実動体制を構築することが重要であるご紹介いただいた。

【湖西中学校での取組】

「災害時に中学生が地域を支える大きな力になることで、自分や家族の命を守ることができる」という方針から学校運営協議会で学校地域合同防災学習が提案・承認され、防災学習・避難訓練を行われた。地域の方々との協力や普段の助け合いを必要だと感じる事ができた生徒が多かったことを紹介された。

【講評】

伊藤氏から、「地域学校協働活動は単なる“学校の便利屋”ではない。子どもの育ちを中心に据えた活動であることを、管理職だけでなく一般の教職員たちも理解することが大切。子どもがどのように育ったかという議論を展開し、PDCAサイクルによって振り返りながら小さな成功例を積み重ねることが、持続可能な取組を続けるために必要である。」等、ご助言いただいた。



9 参加者のアンケートより

- ・竜王西小学校の事例からは、「校歌を切り口に学校と地域を結びつけること」、「部会を中心にできそうなことをプロジェクトにしていくこと」、「学校運営協議会の位置づけや推進員の役割を明確にされていること」など、いろいろな工夫をされていることにヒントとなるものを感じ取ることができた。湖西中学校の事例では、「おはようミーティングを継続して実施していること、学校地域合同防災学習を核として充実した活動を展開されていること」に、切り口や実践するまでの体制づくりについて深く知ることができた。
- ・学校運営協議会と地域学校協働本部が上手く連携して、行動・取組に結びついている点が素晴らしい。推進委員が当事者として子どもたちのためにみんなで取り組めるかが大切になってくる。「おはようミーティング」などのような仕組みを作っておられる2校の取組は勉強になった。竜王西小学校長が言っておられた、「できそうなことを、できる人が、できるように」の考えのように、柔軟な考えを持たないとなかなか進んでいけないと思う。そのようなカリキュラムマネジメント力が必要なのだろう。また、教職員の理解も必要で、同じ方向ベクトルで取り組まないと進まないし、続かないだろう。
- ・講評の中でお話された、『誰かがなんとかしてくれる』のではなく、自分たちが当事者として自分たちの力で学校や地域を作り上げていく」ということを、全教職員が理解する必要がある。
- ・地域合同防災学習について特に参考になった。私の地域では、地域のみで防災訓練を行っている。実際、災害は何時起こるかわからない。タテだけのつながりでなく、小、中、地域、全体を通しての訓練の重要性に気付かされた。地域では、中学生の力を活かした活動が必要だと思った。



- ・竜王西小学校の報告では校歌に着目し、子どもの状況から3つのプロジェクトを立ち上げ地域と学校が連携していることが分かった。子どもの実態、地域の願いをしっかりとらえておくことがすべてのスタートであると改めて感じた。湖西中学校では合同防災学習により、自助・共助の精神が培われ、生涯にわたって住み続けられるまちづくりにつながると感じた。ふるさとへの愛着の気持ちを育むことで生徒が誇れるまちになっていくと思う。